

平成20年度当初予算 重点的な取組別概要 <みえの舞台づくりプログラム>

絆3：「こころのふるさと三重」づくりプログラム（主担当部：政策部）

<プログラムの目標>

住む人も訪れる人も「心の豊かさ」を実感できる「こころのふるさと三重」をめざして、特色ある地域資源を活用した地域づくりと多彩なイベント、観光振興の取組を一体的に展開することにより、地域に埋もれていた多様な魅力が再発見され、地域の魅力に触れるさまざまな体験交流活動が行われています。

また、「こころのふるさと三重」づくりを進める一環として、*平成21年から6年間にわたって県内全域で展開する「^{うま}美し国おこし・三重」により、活動分野や地域を越えた多様な交流・連携が広がっています。 *プログラム目標の一部を変更しています。

<構成事業（担当部）>

- (1) 「こころのふるさと三重」づくり支援事業（政策部）
- (2) 世界遺産熊野古道対策推進事業（政策部東紀州対策局）
- (3) 熊野古道伊勢路を結ぶしくみづくり事業（政策部東紀州対策局）
- (4) 世界遺産登録5周年記念事業（政策部東紀州対策局）
- (5) 歴史的・文化的資産を生かしたみえの魅力発信事業（生活部）
- (6) 【再掲】景観まちづくりプロジェクト事業（県土整備部）
- (7) 【再掲】都市との共生による農山漁村再生事業（農水商工部）
- (8) グリーン・ツーリズムネットワーク拡充事業（農水商工部）
- (9) 【再掲】「旅ごころ誘う三重奏」誘客戦略推進事業（農水商工部観光局）
- (10) 【再掲】三重の観光プロデューサー設置事業（農水商工部観光局）
- (11) 【再掲】魅力ある観光地グレードアップ事業（農水商工部観光局）
- (12) 「^{うま}美し国おこし・三重」総合推進事業（政策部）
- (13) 「^{うま}美し国おこし・三重」開催事業（政策部）

(6)(9)(10)(11)の事業は重点事業「絆1・『住んでよし、訪れてよし』の観光みえ・魅力増進対策」の構成事業を、(7)の事業は重点事業「元気3・農山漁村再生への支援」の構成事業を再掲。

<プログラムの想定事業費>

（単位：千円）

H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
36,012	(23,000) 244,887	24,000	29,000

H19年度は現計予算額、H20年度は当初予算要求額

H20年度の上段括弧書き、H21年度、H22年度は第二次戦略計画の記載額

イベント関連事業分については、「^{うま}美し国おこし・三重」の基本計画等が確定し次第、平成21年度以降の想定事業費を設定します。

< 構成事業の目標 >

目標項目		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
(2)熊野古道の来訪者数 (延べ数)	目標値	-	166千人	179千人	191千人	204千人
	実績値	154千人				
(3)熊野古道伊勢路踏破 挑戦者数(踏破手帳発行 数)(累計)	目標値	-	1,500人	3,000人	4,000人	5,000人
	実績値	-				
(5)歴史街道GISの作 成数(累計)	目標値	-	2街道	3街道	4街道	5街道
	実績値	1街道				
(8)グリーン・ツーリズム大会参 加者数	目標値	-	-	150人	150人	700人
	実績値	-				

(1)(4)(12)(13)のイベント関連事業分については、「^{うま}美し国おこし・三重」の基本計画等が確定し次第、目標を設定します。

< 進捗状況(現状と課題) >

- ・「^{うま}美し国おこし・三重」については、有識者等で構成する「こころのふるさと三重を目指したイベント基本構想策定委員会」を設置し基本構想を策定するとともに、実行委員会の設立に向けた準備を進めています。今後は、この取組への多様な主体の参画や、地域づくりとイベント、観光振興の取組を一体的に進める環境づくりが課題となっています。
- ・街道の多様な魅力・価値の活用に向けては、熊野古道伊勢路文化講座や世界遺産劇場等を開催し、その魅力を広く発信するとともに、伊勢から熊野への連続したイラストマップや踏破に必要な情報をまとめたウォーク手帳を作成するなど、「熊野古道伊勢路」を通して歩ける環境づくりを進めています。あわせて、歴史街道GIS(地理情報システム)を活用し、ツツラト峠・荷坂峠以南の熊野古道の情報の集積や発信に取り組むとともに、まち並みを生かした景観まちづくりを進めています。今後は、これらの取組の連携を強化するとともに、街道を通じた地域間連携、広域連携をより一層推進していくことが課題となっています。
- ・農山漁村の多様な魅力・価値の活用に向けては、グリーン・ツーリズムをテーマとしたシンポジウムを開催しました。今後は、グリーン・ツーリズムに取り組む関係者のネットワークづくりが課題となっています。

< 平成20年度の取組方向 >

「^{うま}美し国おこし・三重」については、多様な主体が参画する実行委員会(平成20年1月に設立予定)を中心に、この取組全体の基本計画と平成21年のオープニング事業の実施計画を策定するとともに、オープニング事業の準備や広報など具体的な事業に着手します。あわせて、地域づくりや観光振興の取組とも連携しながら、地域の多様な主体が協働して取り組む、地域固有の魅力を引き出し、自立・持続的な地域づくりにつなげようとする活動を総合的に支援します。街道をはじめとする地域資源の多様な魅力・価値の活用に向けて、熊野古道を有する紀伊半島三県が連携し、宿泊客・リピーターの増加や観光情報の充実に取り組むとともに、伊勢から熊野までの「熊野古道伊勢路」全体を通じた共通サインの整備や世界遺産登録5周年記念事業(平成21年)の検討を進めます。あわせて歴史街道GIS(地理情報システム)を他街道にも広げるなど、内容を充実させます。田舎(農山漁村)の魅力の発信やグリーン・ツーリズムに取り組む関係者のネットワークの拡充に取り組めます。

<他の主体の参画内容>

- ・住民、地域団体、NPO、企業等は、連携・協働して、街道や農山漁村の魅力を生かした活動など、住む人にも訪れる人にも魅力的な地域づくりを進めるとともに、各地域で多彩なイベントを検討します。
- ・市・町は、地域の多様な主体と連携・協働して、住む人にも訪れる人にも魅力的な地域づくりを進めるとともに、各地域で実施するイベントの準備に主体的に取り組みます。
- ・熊野古道に関わる人々が連携・協働して、熊野古道の魅力や価値を高める活動に取り組みます。
- ・農山漁村に住む人々は、その魅力を生かした地域づくりに取り組むとともに、都市に住む人々は、田舎ファンやサポーターとして農山漁村の地域づくりに参加します。

<主な予算要求事業>

「^{うま}美し国おこし・三重」総合推進事業【20年度予算額 204,874千円】(事業(1)(12)(13))

「文化力」を生かした持続する地域づくりに向けて、実行委員会を中心に、各種計画を策定するとともに、ホームページの開設やPRパンフレット、マスコットの作成など広報宣伝活動を進めます。また、地域それぞれの個性を引き出し、魅力的な体験交流事業等に組み立て、地域内外に発信していくため、専門家の派遣などの支援を行います。

熊野古道伊勢路を結ぶしくみづくり事業【20年度予算額 10,000千円】(事業(3))

伊勢から熊野までの「熊野古道伊勢路」を多くの人々が通して歩くことができるよう、共通サインの整備などを進めることにより、地域間の連携や文化交流を活用した地域づくりを支援します。

(新)世界遺産登録5周年記念事業【20年度予算額 16,458千円】(事業(4))

熊野古道を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」の価値を改めて見つめ直し、文化的景観を生かしたまちづくりにつなげていくため、熊野古道センターや現在整備を進めている紀南中核的交流施設などと連携しながら、世界遺産登録5周年にあたる平成21年に向けて、国際シンポジウム等の記念行事の準備を進めます。

歴史的・文化的資産を生かしたみえの魅力発信事業【20年度予算額 5,306千円】(事業(5))

GIS(地理情報システム)を活用した「歴史街道GIS」を作成し、ホームページ上で、航空写真、古地図、ハイビジョン動画、高精細画像などで街道周辺のさまざまな情報を提供、発信します。

グリーン・ツーリズムネットワーク拡充事業【20年度予算額 2,700千円】(事業(8))

県内のグリーン・ツーリズム実践者相互のネットワーク構築および県民の農山漁村への理解醸成をめざし、地域研修会およびシンポジウムを開催します。